

授業科目名 (英訳)	西洋史学 (特殊講義) European History(Special Lectures)				担当者所属 職名・氏名	文学研究科/総合生存学館 教授・小山 哲					
配当学年	1・2・3 回生	単位数	4	開講年度 開講期	H27 通年	曜時限	木/1	授業形態	講義	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>題目： ヨーロッパ世界における歴史認識の歴史</p> <p>ヨーロッパ世界では、歴史をどのように認識してきたのであろうか。また、歴史を研究する視角や方法は、時代の変化にともなって、どのように変化してきたのであろうか。近代以降の日本の歴史学は、ヨーロッパで成立した歴史認識をどのように受けとめ、どのような視角から学問的な研究の対象としてきたのであろうか。この講義では、古代から現代までのヨーロッパにおける歴史認識の歴史を概観し、各時代の歴史叙述の特徴や、歴史研究の方法をめぐる議論を紹介する。本講義をつうじて、西洋世界における歴史認識の特徴についての理解を深めるとともに、東アジアに固有の「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について考える素材を提供することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界における歴史認識の特徴とその歴史的な変化の過程について理解する。 ・学問分野としての「西洋史学」の成立の背景、展開の過程、現状と課題について、史学史的な視点から理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>本講義では、下記の各項目について1～3回に分けて授業を行なう。☐「ヨーロッパ」像の変遷 ☐自然哲学から歴史叙述へ（ヘロドトス） ☐可能な限り厳密に（トゥキユディデス） ☐帝国の憂鬱（タキトゥス） ☐救済史としての歴史（ヨーロッパ中世の歴史叙述1） ☐過ぎし年月の物語（ヨーロッパ中世の歴史叙述2） ☐普遍史の危機 ☐人間が歴史をつくる（ヴィーコ） ☐ふたつの歴史哲学（ヴォルテールとヘーゲル） ☐事実は一体どうであったのか（ランケ）〔以上、前期。以下、後期〕 ☐ランケ史学と日本 ☐歴史のなかに「繰り返すもの」をみる（ブルクハルト） ☐人間がつくる歴史、歴史に縛られる人間（マルクス） ☐脱魔術化する世界（ウェーバー） ☐人喰い鬼としての歴史家（『アナール』の創始者たち） ☐時系列史から表象の歴史へ（『アナール』のその後） ☐境界を越える／境界を考える。受講者の理解を深めるために、テーマに応じて質疑応答の時間を設定し、受講生との対話をふまえながら授業を進める。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>本講義の到達目標をふまえて、講義内容の要点にかんする理解度を確認するために前期末と後期末にレポート試験を行ない、その結果を総合して評価する。前期末試験と後期末試験のそれぞれについて60点以上を合格とし、いずれかが60点未満の場合は不合格とする。</p>											
【教科書】											
使用しない。授業中にプリントを配布する。											
【参考書等】											
授業中に紹介する。											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業中に紹介する参考文献を授業後に読むことで授業内容についての理解が深まるであろう。											

[その他 (オフィスアワー等)]

※オフィスアワー実施の有無は、KULASIS で確認してください。

skoyama@bun.kyoto-u.ac.jp